

## 伊賀 へんこ

ここのひとあは、なんや、  
ちょっと変わっとる

自分と信じる道を進んで、  
周りの目えやら気にせえへん  
こっちの言うことみたいなの、  
ひとつも聞かへん

ありゃあほんまもの  
「へんこ」やで…

畑は草まめしやし、  
堆肥やら持ってくるし、  
ちょっととうとましいけど、

こどもに安全なもん食わすやら  
昔ながらの文化を守るやら、  
100年後の地球のことやら  
そんなばっかり言うどるの聞いて

我がのことも、銭のことも忘れて  
こっこつ、こっこつと、  
毎日、毎日、  
朝早うから畑に来どるの見とったら、

なんや、それも大事なことかもしれん、  
そんなん思えてくるんやあ。

※「へんこ」は関西のことばで、頑固な変わった人、というような意味をもった言葉です。



私たちは未来を信じています。

私たちは伊賀の大地と人びとをこよなく愛しています。

私たちは前を向いて歩きます。

私たちは化成肥料や化学合成農薬を一切使用しない農産物をお届けします。

忍者で有名な「伊賀」ですが、この地域は隠れた「有機農業」のメッカです。

三重県伊賀市・名張市周辺での有機農業の取り組みには40年以上の歴史があり、生産者の数も40軒を超えます。

ところで、「有機農業」というと、みなさん、どんなイメージを持たれるでしょうか？

実際にお米や野菜を買っていただく方は、化成肥料や農薬を使っていない、「安全」で「美味しい」農産物、と理解されているかもしれませんが、でも、生産者の側から言えば、それはむしろ「結果」ではないのです。有機農業に取り組んでいる生産者は、皆、なんらかの「こだわり」をもっています。

農薬を使って生態系を乱さない、とか、自然の循環がスムーズにいくように、とか、

化石燃料・エネルギー資源を無駄遣いしない、とか、自分の食べるものはできるだけ自分でつくる、とか、

ただ楽すればよいのではなく汗かいてナンボ、とか、「こだわり」には色々なものがあります。

いずれにしても、有機農業に取り組む人を見ていると、自分だけ良ければいいとか、ただお金を稼げればよい、と考えている人は、ほとんど見当たりません。それはなんとも気持ちのよいくらいです。

こどもたちのため、地域のため、地球のため、未来のため。それを本音で考え、口だけでなく現場でひたすら実践しているのが「有機農業」に取り組むなかまたち。

貧乏だろうと、日々働きづめだろうと、笑ってガハガハと、そしてコツコツと、

晴れの日も雨の日も、田畑に出てはたらきつづける。

最近のことばでいうと「エシカル<倫理的>」。それがびったりくる気がします。

現代社会のなかで「正しさ」を貫くのはそんなに簡単じゃない。

それを敢えてやる変わり者たち、

関西の言い方でいう「へんこ」な人たち、

伊賀の有機農家はそんな人たちばかりなのです。